3人が登壇！

代表質問

代表質問とは…
12月の定例会において、3人以上で構成された会派が行うことができます。

市政同志会
帰山 明朗 議員

牧野市長の今、鯖江市政4期16年を振り返っての所見は

答市長　就任以来、常に現場百遍を念頭に市民の声に耳を傾け、市民主役の土壌づくりに取り組んだ。市民生活の安全安心確保に重点的に施策を反映し、子や孫に負担をつけ回さない自治体経営、人口の増加等に向けてシティプロモーションに取り組んだ。

具体的には、治水対策では河川改修、雨水幹線や砂防堰堤の整備、田んぼダムなど総合的に取り組み、一方で行財政構造改革アクションプログラムを策定し、人員配置適正化、起債の繰上償還に努めた他、指定管理者制度導入、下水道事業計画の見直し。市民公募債発行。ふるさと納税の充実、国の地方創生交付金の活用など財政健全化に取り組んだ。

また、「めがねのまちさばえ」を前面に押し出し、鯖江のイメージは全国的にも広まってきた。今後はこれをどのようにストーリー化するかが大きな課題。

財政指標も堅持しているが、今後の社会保障の伸びや国土強靭化の取組など、まだまだ課題は積み残されている。国の予算の大幅な伸びも望めない中、自治体がどこまで蓄えておくか大きな課題。こうした中で持続可能で100年後にも鯖江が残るよう取り組みたい。

来年度の教育行政での重点事項は

答教育長　来年度は小学校で新学習指導要領が完全実施になる。その円滑移行が大切な時期。英語の教科化やプログラミング学習実施に向け前倒しで取り組んできたが、新年度に向け教員負担軽減に必要な学習環境整備を図ることが大切。また教員の多忙化解消も重要課題。特に中学校教員の超過勤務時間が部活動や生徒指導の関係で長時間になっている。本市でも県の策定した業務改善計画に基づき市業務改善基本方針を策定し取組を始めたところ。今後、学校と教育委員会が連携し先生の子供と向き合う時間確保や健康増進の点から進めたい。教育委員会と学校教育・社会教育・社会体育等の現場との連携を密に現状や課題をしっかり把握し、情報共有化を図り、各分野の教育振興に努めることが重要。

市民創世会
丹尾 廣樹 議員

防災対策の課題と対応

問　大型台風15号、19号の教訓から避難方法等安全の確保を今後の防災対策にどう活かすのか。

答　今回、車での移動中に流されたケースや浸水により住宅内で被災したケースがあり、避難や移動の判断の難しさが浮き彫りになった。市としては、早めに適正な避難行動を判断できるよう、正確な情報の発信に努め、自らも防災に対する意識と知識を持ってもらうよう、更なる啓発を図っていきたい。

意見　洪水に関し、次の2点が、本市に見える行政課題。１つは、日野川の天王川、浅水川との合流域、福井市清水山橋が本市にとって下流域で最も狭隘な箇所。ここの拡幅等、洪水の危険度を下げる河川改修工事の早期の事業化を図るべき。また2つ目は、被災者支援のあり方、特に浸水被害支援の現行制度拡充に力を注ぐべきと考える。

女性が輝く社会の構築について

問　女性活躍に関し、鯖江には女性が活躍しやすい土壌があるとの認識のもと、積極的に推進していく姿勢が見える。昨年5月の国連での市長演説からわずか1年半。しかも同年6月にSDGｓ推進の職員研修会を急遽行い、支える職員も日が浅く、市民への広がりも今期待できない状態で、ついていけない。「女性が輝く社会の構築」をどこまでやるのか。

答市長　時間的にはまだまだ必要に思うが、世界に発信できるよう土壌を整備して、世界の女性、あるいはまた日本の女性、ひいては鯖江の女性の地域での活躍等、SDGsに対する取組を国際発信できたらいいと思う。大きな目標に向けて小さなまちから大きな発信を高い志のもとでやっていく。

そのほかの質問

○第2期総合戦略の課題と対応
○公共施設等総合管理計画について
○大学連携等について
○職員管理について
　①公務員の倫理観
　②事業過多により職員の多忙